

沖繩戦 78年 憲法施行 76年 講和条約 71年 沖繩復帰 51年

沖繩の心は戦争につながるものを拒否する

沖繩戦の実相にふれるたびに
戦争というものは

これほど残忍で 此れほど汚辱にまみれたものはない と思うのです。

この生々しい体験の前では
いかなる人でも
戦争を肯定し美化することは できないはずす

戦争をおこすのは たしかに 人間です

しかし それ以上に
戦争を許さない努力ができるのも 私たち 人間 ではないでしょうか

戦後このかた 私たちは あらゆる戦争を憎み
平和な島を建設せねば と思いつづけてきました

これが あまりにも大きすぎた代償を払って得た
ゆずることのできない 私たちの信条なのです

◆これは、沖繩県・平和祈念資料館に沖繩戦で住民が受けた惨劇が展示されている、最後の結びのことばです。全国から、おおぜいの高校生が修学旅行で訪れています。

沖繩の歴史の中で、最も悲惨な出来事が1945年(昭和20年)3月から9月まで、日本敗戦後も続いた「沖繩地上戦」でした。米軍が沖繩に上陸、日本軍は住民を守らず、20万人以上、何と沖繩の人口の4分の1の命が犠牲となりました。

亡くられた一人ひとりのお名前が平和祈念資料館の隣りにある「平和の礎」に刻まれています。沖繩の方々が平和を求める、非暴力の闘いを続けている原点がここにあります。

◆しかしながら、日本の国は、軍事大国として大きく舵を切り、米軍と一体になって戦争できる国へと着々と準備しています。「台湾有事」とあり立て、軍拡の道をまっしぐら。

自衛隊がいなくて平和であった与那国、宮古、石垣島の先島のラインに自衛隊、ミサイルが配備されています。本島うるま市・陸上自衛隊勝連分屯地にミサイルを配備・連帯本部となろうとしています。この分屯地に隣接したホワイトビーチでは、米海軍と海上自衛隊が一体となり有事に備えた活動をしています。

「台湾有事」を作り出す米軍に追従して、戦争の危機を沖繩に作り出しています。

◆5月21日、沖繩・北谷(ちやたん)に2000人の方々が集まり、平和集会在が 次のようなスローガンのもとで開かれました。

争うより愛し合いなさない。 島々を戦場にしないで！ 沖繩を平和発信の場にしよう。

沖繩は、人間が住む島です。

沖繩に住むわたしたちの望むのは「平和」、

それはミサイル配備ではなく、世界の人々と心を通わせ 交流することです。

二度と島々を戦場にさせない。 平和の作り方を考え、共に発信しましょう。

◆「敵基地攻撃能力」保有・大軍拡は戦争の道、
「憲法九条」こそ平和の道です。主権は国民一人ひとりにあります。

沖繩の心とは、戦争につながるものを拒否することです。

私たちはこの「沖繩の心」をもって、平和行進しています。

二〇二三年六月十一日(日)護憲平和行進(通算676回目)

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

